には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム アネシス
日付	平成16年7月23日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	病院での相談援助業務歴30年、家族介護歴13年 養護老人ホームほか介護業務歴13年
自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）	
評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）	
事業者のコメントを見る （評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）	

外部評価の結果

講評
全体を通して（特に良いと思われる点など）
最寄りのJR駅より、比較的近く、小学校、病院、老人保健施設、総合ケアセンター（訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、在宅介護支援事業者）、特別養護老人ホームに隣接した形で建てられており、保健、医療、福祉、教育の連携の中で、生活に最適な環境 が整えられていた。
職員のケアサービスも、終始丁寧で、温かい言葉かけにより、入居者の尊厳を大切にしたりさりげないケアがなされていた。
職員全員が、自己評価を行い、課題追求に熱心であるとともに、施設長、管理者が研修活動に重点を置き、積極的な姿勢が見受けられた。
利用料金が、入居者、家族にとって、利用しやすい低料金で設定されている。
特に改善の余地があると思われる点
既設の建築物を改造して建てられたため、くつろぎスペースが狭く、団楽の場に、職員は苦勞している。ソファを置いたり、食事時間との区切りをつけるために、テーブルやイスの配置を少し変えていく等の改善が必要と思われる。
二つのトイレが共にカーテンで閉められていたが、プライバシーの上でも、また職員や、家族の利用も考えられるので、一つは、ドア型が良いのではないかとと思われる。
事務室が狭く、資料整理に棚や備品等を使用して、効率化を図る必要があると感じた。
事業所単独で、入居者本位の余暇活動についての取り組みが必要と思われる。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>事業所の理念として「明るく、暖かく、愛をもって」を掲げ、地元や地域の中で、自然になじみ、安心して住めるゆとりを目指している。</p> <p>事業所としては、独自で運営確認票を設け、サービスを提供している。具体的には家庭的な雰囲気作りをする。禁止語（命令語）なれない言葉がないケアの実践。生活感が出るケアの工夫（家事、調理、季節感）。入居者一人ひとりの尊重 誇りやプライバシーを損ねない気配り。入居者一人ひとりのコミュニケーション。入居者のペースを尊重した生活。入居者の自己決定が出来るような配慮、声かけ。その人らしさを発揮できるようなケア。ホームに閉じこもらない生活。以上の内容が実行できているかの定期的なカンファレンスの開催。</p> <p>痴呆ケアとケアプランのポイントとして なじみの人間関係(仲間)を作る。対象者の行動を受け入れ、心情を理解する(受容)。対象者のペース・レベルに合わせる。理屈による説得より、共感による納得を。対象者にふさわしい状況(環境)を与える。よい刺激(五感)聴覚、視覚、味覚、触覚を少しでも与え続ける。対象者を遠慮させない・孤独に放置しない。急な変化は避け、パターン化して誘導する。叱らず、よい点を認め、誉める。(できること、潜在能力の活用) 対象者の「今」、その人らしさを大切に。する。心がけている。</p> <p>このような「運営確認票」や「痴呆ケアとケアプランのポイント」を定め、サービスを実施する際実践しようとして努力していることは評価できるが、文中の「対象者」の表現を「入居者」に改めたほうが良いと思われる。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>くつろぎスペースを、少しでも広く利用できるよう検討中である。</p> <p>廊下を木目調にして暖かい雰囲気にするよう、現在作業中である。</p> <p>ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書を作成し施設全体のカンファレンスを行う際の議題とするなど、入居者が落ち着いて生活できるよう、安全面に配慮が見られた。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>(記述) 接遇の基本を事務室に大きく掲示し、居室への出入りの際は、必ず同意を得て行うなど、職員に周知できている。また、サービス提供を行ううえで、運営確認票を作成するとともに、痴呆ケアを行う際のポイントを作成し周知しているが、全職員に浸透させるために更なる組織内研修が必要と思われる。</p> <p>(改善すべき点) 入居者一人ひとりの力や経験の尊重から導かれる「出来ること」、「喜び」、「楽しみ」、「願い」、「笑顔」、について、それぞれの行動記録表に具体的な記述を期待したい。</p>		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	職員全員が、常に自己評価を行い、サービスの改善に努めることを重視している。		